

けんしゅうしましよ

10号
R2. 1. 15
文責 鈴木

11月21日（木）ことばの教室において校内授業研が行われました。

- ・Aさん（小1）・・・特定の音の発音が正しくできない子への指導（宮崎先生）
 - ・Bさん（小2）・・・語彙理解が弱く、発音の誤りや吃音症状のある子への指導（大畑先生）
- * 自立活動における個別指導の指導場面とビデオでの公開を参観させていただきました。



○授業者から

- ・自由会話が終わらず、後の指導が短くなってしまった。児童はいつもと違う雰囲気を感じ取っていた。担当の緊張感が伝わってしまっていた。構音の誤りにどう気付かせるかが課題となる。口元を見せずに発音して聞かせる、正音を聞き分けることができない。（宮崎T）
- ・ビデオを見ていただくことで、より児童のことを分かってもらえたのではないかと思う。発音や吃音症状の他にも課題となるものがたくさんある。どこから指導したらよいのか試行錯誤しながら指導を続けているところである。（大畑T）

○指導場면을参観しての質問や詳しく知りたいことなどに答えていただきました。

- 1 「シャ・シュ・ショ」の音を正しく発音するための指導法があれば教えてほしい。
 - ・「シーヤ・シーヤ」と発音させ、シとヤの間を少しずつ短くしていき、聞き分けられるようにしていく方法もある。
- 2 構音だけでなく、単語の意味を覚えさせるための指導法や参考になる本があれば知りたい。
 - ・参考になる本はたくさんあるが、発音などの問題が何の弱さからくるものなのか見定めて指導することが必要になる。「矯正のため装具を付けている」「文法の理解が足りない」などということも考えられる。本児の場合は言葉を覚えるのが難しく「かぞく（家族）」を「かごず」と覚えていた。ワーキングメモリの問題も考えられる。
- 3 1対1なので児童との信頼関係がないと指導ができないと思う。自由会話を途中で切ることができない所に難しさを感じた。子どもはどこまで自分の課題を把握しているのか。
 - ・本児の場合何が言いつらいのか尋ねると、本人は言いにくい音があることはわかっていた。児童によって理解の仕方に違いがあるので、一人一人に応じて対応している。吃音の場合本人に伝えるときはタイミングを考えることが必要になる。教育相談の段階で困っていることを聞くようにしている。

～お忙しい中授業をしてくださった宮崎先生、大畑先生ありがとうございました。～